

事務事業チェックシート

事務事業No **505** 事業名 **準用河川改修事業（前代川）**

[事業基本情報]

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	3	住環境の整備
施策	2	河川・水路の整備
基本方針	1	準用河川の改修

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		土木費	
	項		河川費	
	目		準用河川改修事業費	
	大事業		準用河川改修事業	
事項		準用河川改修事業（補助・単独）		

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	平成21	～	平成30
事業実施の根拠法令			
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	河川港湾課	榎本 利孝 (435-1090)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
		○		
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	前代川が合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行い、吉礼地区の浸水被害を解消する。	吉礼地区の浸水被害を解消するため、合流する和田川への放水路の新設及び河道改修を行う。事業の流れとしては、設計→測量→用地取得→工事→竣工				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		用地購入 1,850㎡ 物件補償 2件 残地補償 2件 地盤改良 40m	用地購入 205㎡ 護岸改修 80m 地盤改良 80m	用地購入 1,130㎡ 地盤改良 80m 護岸改修 40m	護岸改修 100m 補償歩道橋工事一式	用地購入 400㎡ 護岸改修（合流部）100m 補償橋工事一式

2 事業コスト

事業費等	千円	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費		314,024	122,129	38,612	122,426	172,553		266,470		344,920	
伸び率 (%)		-	-	-87.7%		346.9%		54.4%		29.4%	
人件費	常勤職員	20,840	23,472	24,503	23,459	24,503		24,503		24,503	
	非常勤職員	0	0	0	0	0		0		0	
	小計	20,840	23,472	24,503	23,459	24,503		24,503		24,503	
国庫支出金		98,671	34,000	10,200	38,500	54,000		83,000		108,000	
県支出金											
市債		193,900	78,000	17,900	70,000	103,000		158,800		209,600	
その他											
一般財源（税等）		23,973	10,129	10,512	13,926	15,553		24,670		27,320	
所要人数	常勤職員	2.81	3.14	3.15	3.10	3.15		3.15		3.15	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00		0		0	
主な予算内訳		工事請負費94,000千円 委託料9,000千円 公有財産購入費39,600千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	単位	m	全体目標値	全体目標達成度	年度目標値	実績値	年度別達成度	年度別達成度	年度別達成度
準用河川（前代川）の改修延長（累計）	年度目標値				50	90	112	212	312
	実績値				40	48			
	年度別達成度				80.0%	53.3%			
	全体目標達成度		312	15.4%					
準用河川（前代川）の改修率	年度目標値				10	18	22	42	62
	実績値				8	10			
	年度別達成度				80.0%	55.6%			
	全体目標達成度		62	16.1%					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>準用河川前代川は、大雨時には河道の流下能力不足、放流先の和田川の内水排除不足により度々浸水被害が発生しており前代川の早期改修は流域住民の悲願である。和田川への放水路の新設を行い前代川流域の大幅な浸水被害の解消を目指す。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>前代川改修事業は、当初平成32年度の完成予定であったが、平成24年の豪雨で甚大な被害があり、その後流域住民から早期完成の要望があり、工期の短縮が出来るように見直した結果、2年間の前倒しをすることにより平成30年度の完成を目指す。</p>